

新築された校舎は三棟で、高寺小学校時代の校舎と合せて六棟の校舎がありました。第一校舎といわれ、新しい本館は二階が講堂で、中一本の柱もなく、当時こんな広い立派な講堂は他どこにもなく、県下一と誇っていました。

明治四十三年に、全国優良小学校として時の文部大臣から表彰されました。

辰から表彰されました。朝起会が始まりました。朝ちようどこの頃でした。朝起会が始まりました。朝早く起き——夏は五時頃、冬は六時頃——学校へ集まり、先生から出席簿に印をつけてもらって家へ帰り、朝食をすませてまた登校してました。出席のよい地区には毎月末に星のついた旗——男子には目的地に志の星、女子には赤地に白の星——が授けられていました。またこの朝起会に水風呂入りが始まり、小使室の井戸端近くは水風呂が作られて、元氣な男の子たちが交わるかある飛ぶ込んでいた。冬は朝まで氷を割って飛ぶ込むこともありました。

また、この頃は体育運動が盛んで、一年中通して放課後に運動時間があり、全校一斉にシヤツ一枚に汗の運動場に走り出て、担任の先生の指導の下に思い思いにスポーツをやっていました。一番多かつたのは校外に出て遠くまで駆け足をやったことでした。葛の蔭までとか鶴岡までとか、学年に適當な距離を走っていました。高学年は上野切畑まで走っていました。どしどしぬぶりの雨の中を傘をさして城山へ駆け登ったことを覚えていてます。その頃の高等科の生徒が、真冬の雪降りの日に運動シヤツ一枚で、中ノ谷峠の麓守藤木まで走って行って、馬に乗って全国を行脚中の福島大将をお迎えし、大将を感激させたいことがありました。福島大将といえは単騎でシベリヤを横断した將軍です。私

どもが兒童の頃はこの大将が来校した際に植えた記念の松の木が、本館玄關に何って左側にありました。

こんな元氣発射と一校風は、その当時石川校長先生を初め、諸先生方のお骨折りでつくられたものと思います。就中忘れられることの出来ないな野村越三先生であります。この先生が朝起会も放課後の体育運動も創められたのであります。城山に鳥が鳴かぬ日はあつては、運動姿の野村先生を見ない日はないと言われていました。先生を慕う兒童たちがいつも先生の周りに群がり集まって、楽しそうに運動をしていました。この先生も温情におられたお姿が胸像にすぎません。三ノ丸の一隅に立っています。(つづく)

青箱

三の丸の思い出

東京 中島 フナ

(御紹介)

中島フナ氏は依内先生に生まれ旧姓は兒玉氏、大正の初め中野小学校の教師としてお勤めになられたことにより、編集者にはなつかしい旧師。(毛利家の令嬢のご子孫かと仲のよい学生であった也) 中島子(……)中島時軒と学問をもつて知られた中島家の当主中島祐吉氏と御結婚、東京都世田谷区調布町六五二ノ七に御在住、茶を扱ってゐられるが、旧職もまた多額の御寄附を頂いて左賛助会員です。

(前文首略) 一いつは御史談をお送り下さいまして誠に有難く、な

(羽柴)

つかしく拝見いたして居ります。

三の丸御殿保存に付いても大変御心配下さつてゐるの  
は、只感謝の外御座いません。

私の思い出—あの三の丸の御殿。 唱歌室、岡崎

先生が、花子さんが、ヒバリの歌を、空を見あげてうな  
つてゐる画を、上手ななと思ひながら、皆で声を張り上げ  
歌つた。うす暗い教室でした。

佐伯ははめずらしく雪の降つた時でした。私は高下駄  
へ今思ふと馬鹿らしいをばいて出かけた。齒は雪  
がつまり、よろ／＼として大きな石や電信柱で雪を落し  
ながら行くうち、先生がむかひに赤で下まつた。あの石  
畳を、先生に手をひかれ、這う様にしておらぶき屋根の  
校舎にたどりつきました。

あの石畳の上のやぐらで、じんろくさんが十二時の太  
鼓を打っていました。ドン／＼と……  
又、じんろくさんは御殿の裏の片すみで、ゾーリを作  
つて売っていました。あらゾーリニ交五登、竹の皮ゾー  
リニ交。少しは女おに赤い布でも入れておると、とても  
とてもうれしかつた。

私共年代の人々にははいる／＼と思ひ出があります。し  
かしその思い出のある無しにかかわらず、三の丸にお城  
の御殿が残つてゐるといふことは、なんとすてきなこと  
でしょう。佐伯に生まれ佐伯に育つた人なら、きつとす  
つかしい思い出の定物だと思ひます。

何とか残して置いてほしいものですね。あの太鼓も御  
殿の片すみだけでも保存されたらなあと思ひながらペンを  
置きます。

史談会へ回封（法金三千円左右）お送り致します。お受  
けとり下さいませ。

どうか良いお年をお迎え下さい。  
明治二十七年生まれの私。目もめるく文士あときき、お  
読みにくい事と存じます。御推読下さいませ。  
（以上）

研究

郷土の先覚者たち

— 塑像と頌徳碑より —

会員 山本 保

（佐田市池船区）

(一) 河野 豊氏

弥生町植松、暖宕神社鳥居横（旧明治村役場前）に、  
河野豊氏の半身像（塑像）が立てられてゐます。

（台石正面文字）

河野 豊氏像

（台石裏面文字）

明治三十五年五月市野瀬平太郎氏ノ後ヲ承ケ、二代  
目明治村長ニ選任、大正二年五月迄四期滿十六ヶ年  
ノ長キ間、銳意村政ニ尽瘁、幾多ノ功績ヲ残ス。

時ニ明治三十一年より同四十五年ニ亘リテ、村内ニ  
存スル官有林全部ノ松下ヲ達成シ、其ノ一部ヲ關係  
部落及寺院ニ、残余ハ本村有林野ニ編入ス。  
是ガ爲、後代村長ノ被ムル恩惠ハ、蓋シ計リ知レザ  
ルモノアリ。茲ニ其ノ功業ヲ顕彰シ、洪恩ニ対シ感  
謝ノ誠ヲ捧ゲンタメ、此ノ尊像ヲ建設ス。

昭和二十六年十月建設